

令和2年度 薬物乱用防止啓発用ポスター講評

審査員代表 松江市立第四中学校

教諭 金築 亨

社会生活を営む上で、誰もが安心して生活できる環境を自らの手でつくっていくこと、また余暇を楽しむための趣味嗜好を多方面に求めていくことは、ごく自然な人間の望みでもあります。昨今インターネットやSNSなどの普及などにより、匿名性の高いインターネットを利用して「危険ドラッグ」が容易に手に入ったり、健康被害や悪質な事件などが身近な範囲で社会生活を脅かしたりする時代になってきたのも事実です。本県の薬物事犯による検挙者数は全国の状況に比べれば少数ですが、薬物乱用は若者だけでなく様々な年齢層に広がり、たくさんの人が加害者や被害者になる状況が深刻化しているとも言われています。そのような中で、県内の中学生及び高校生から薬物乱用防止を啓発するポスターを募集し、薬物乱用の恐ろしさについて意識を高めることはとても意義深い活動であるといえます。

今年度は、県内の中学校・高等学校から62点の作品が集まりました。作品数は昨年より4割少なくなりましたが、子どもたちの薬物乱用防止に対する切実な思いや将来自分たちが生きていく社会への警鐘と受け止められる作品が多かったと思います。

高等学校からは15点の応募がありました。発想豊かな画面構成力、描写力がとても高く、自分が何をどう表して伝えたいのか明確に表現されていた作品が多かったと思います。高校生ならではの主題の捉え方が工夫されており、見る人の心に切実に訴えかける作品が多かったと思います。中学校からは47点の応募がありました。授業で取り組まれた学校や部活動でじっくり時間をかけて制作された学校の作品がありました。絵の具の純色や彩度を落とした色などのバランスを考えて効果的に表現したり、標語が伝える意味を考えて配色したり、言葉の配置などを効果的に配置したりするなど見る人によくわかり、心に訴える表し方をしている作品が多かったと思います。

選考にあたって配慮したことは、薬物乱用防止の目的を理解し、視覚伝達というポスターの機能性を生かして描かれた作品であり、学校の授業で習った技能を駆使して形や色彩構成を独創的かつ効果的に表した作品であるか。また、標語の意味が伝わりやすくメッセージ性が高く、レタリングをていねいに行き見やすい文字を構成している作品であるか等の観点を確認して審査したことです。

今回県知事賞を受賞された作品は、上記のことを十分に満たしており、スマートフォンを通して薬物乱用の道に引き込まれようとする人の揺れ動く行為を象徴的に表すとともに、それが日常的に存在する世界観を細かく写實的に描くなど、高い表現力のある作品に仕上げていました。見る人がまさに今自分がこの場面に遭遇したら、薬物乱用に対して抵抗しなければならないという作者の思いが伝わる作品だと感じました。その他入賞した作品につきましても、時間をかけてていねいに制作されており、大変完成度の高い作品に仕上がっていました。指導にあられた先生方の日々のご苦勞やご努力、およびその指導の下で熱心に制作された生徒のみなさんの意欲的な活動に敬意を表します。

来年度の実施におきましては、薬物乱用啓発活動の主旨をたくさんの学校の先生方にご理解いただき、今年度以上の出品数を期待しますとともに、創造する喜びを生徒がしっかり感じるような美術教育がますます発展しますことをお願いし、講評といたします。